

# 平成30年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

## 小論文

農学部 亜熱帯農林環境科学科

### 注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配布するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

## 問題

問題 次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

平成 29 年 5 月 26 日に神戸港で発見されたアリが、専門機関による種の同定の結果、わが国に侵入した初めてのヒアリと確認された。ヒアリの侵入は、毒針によるヒトへの危害のほかにも、環境へのさまざまな影響が懸念されており、わが国への侵入・定着を妨げなければならない。その後、大阪港、名古屋港、東京港などで相次いで発見され、現在も日本各地でヒアリの調査が行われている。

①環境へのさまざまな影響が懸念される外来生物の侵入を阻止するために、特に重要な役割を果たしているのが「検疫」である。検疫では、人を含む動植物の伝染病の流行や有害な生物（ウイルスを含む）の侵入拡大を予防するため、その有無について診断、検査し、発見された場合には消毒・隔離などを行う。

沖縄県では、国内の他の地域に発生していない、農作物に被害を与える有害生物や病原体に対して、検疫による国内の移動規制が実施されている。アフリカマイマイは、食用として沖縄へ持ち込まれた後に野生化した有害生物であり、他都道府県には生息していないため、その対象となっている。また、世界的に柑橘（かんきつ；みかん類のこと）栽培で重大な被害を及ぼしているカンキツグリーンング病が沖縄県内において発生しており、その病原体だけでなく、これを媒介するミカンキジラミに加え、これらが付着・感染している可能性のある柑橘類の植物体も移動規制の対象とされている。その病原体は、もともと沖縄にはいなかった微生物である。

検疫の対象として、海外の植物の苗や種子の輸入品目も挙げられる。②農業生産者による育種・栽培を目的とした輸入が多いが、これらの植物は検疫によって一定期間、隔離栽培試験などを行い、病虫害を保有していないことを検査した上で、輸入が認められる。しかし、海外渡航先で入手した植物を無断で国内へ持ち込もうとする場合も多く、検疫制度の徹底と国民の理解が課題として挙げられる。今後、貿易の拡大や海外渡航者の増加による検疫業務の多様化と業務量の増加も大きな課題である。

### 問 1

下線部(1)の「環境へのさまざまな影響」に関して、外来生物はその地域の環境に具体的にどのような影響を及ぼすと考えられるか。また、環境保全の観点から、それらにどのように対処すべきか。あなたの考えを 300 字以上、400 字以内で述べなさい。

### 問 2

下線部(2)に関して、海外の植物の苗や種子を輸入することが、どのようにわが国の農業生産の改善や食料自給率<sup>(注)</sup>の向上につながるか。また、問 1 の防疫対策とのかねあいから、外来植物として海外の作物を導入し、実際に栽培していく場合、どのようなことを考慮し、注意する必要があるか。あなたの考えを 600 字以上、800 字以内で述べなさい。

<sup>(注)</sup>食料自給率：

国民の消費する食料をどの程度まで自国内で生産できているかを示す指標である。わが国ではカロリーベース（熱量換算）で 40%を下回っており、様々な国から多様な食料を輸入している現状にある。

## 平成30年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

# 小論文

農学部 亜熱帯農林環境科学科

### 出題の意図

亜熱帯農林環境科学科は、農学分野の技術開発及び研究等を行う専門家として国内外で活躍することを志し生物資源・環境の機能や特性の解明に興味をもつ人、生物生産と自然環境との調和を目指す人、生物多様性の理解を通じて環境保全に貢献したい人材をアドミッションポリシーとして掲げている。そこで、今年全国的に問題となった外来生物の侵入事件を題材に有用生物の輸入および検疫に関する問題を取り上げ、農林環境の保全・保護と農業振興に関する問題意識を問い、発想力、論理的な思考および自分の考えを表現し、まとめる能力を兼ね備えているか否かについて総合的に評価する意図で出題を行った。